

はがの文芸

サークルなどで活躍されている皆さんの作品をご紹介します。

短歌

川堤ゆけば尾花の揺るる下川波
暮れて月明り出す

荷見 泰一(芳志戸)

小康にそぞろ歩みの草
紅葉見るものすべて優しくなりぬ

柳 治男(与能)

記念にと拾いし紅き楓の葉
読みしページに秋を閉じ込む

藤沢 久夫(稲毛田)

老いの身の心ゆさぶる書に出合い
秋の夜長の忽ちにして

長谷川 忠(ハツ木)

俳句

初生りのパチンと柚子に鉄入る

稲川 清子(与能)

永き夜や目覚の再び医師の顔

河上 洋子(祖母井)

花ハツ手淡き匂ひと日の匂ひ

大畑ハマ子(下延生)

男体山空に鳶の輪秋うらら

福武 幸子(下延生)

川柳

道草をする子供らの声が無い

山本美枝子(稲毛田)

さつま芋代用食のこともあり

小林 正孝(祖母井)

安らぎの里という名の過疎地域

吉住 広子(祖母井)

人と人みんな違ってそれでいい

駿河 富夫(稲毛田)

あなたの声を聞かせてね!

お便り待っています!

●身近な出来事や町に関する要望・意見

鈴木モコさんからの投稿

町民祭の作品展示コーナーで、高松イクさんの「広報はがイラスト集10年間」を拝見し、感動しました。私も10年目指して頑張りたいです。

▼高松イクさんが作成した「広報はがイラスト集10年間」は、総合情報館北側エントランスに展示しています。ぜひご覧ください。

小林操さんからの投稿

住民の生命・財産を守ってくださる消防団員の皆さんに感謝しています。私たち住民も、日頃から大災害に備える意識を持ちたいです。

▼町では、「自助・共助・公助」の役割分担による大災害発生時の速やかな対応を目指しています。また、消防団員の募集が始まりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

県政懇談会においていただいた意見・要望

11月5日に開かれた県主催の県政懇談会に、町から12人の代表が参加し、14件のご意見・ご要望をいただきました。ありがとうございました。一部をご紹介します。

・東水沼地内の県道石末真岡線には歩道がなく、朝晩の交通量が多い時間帯は、歩行者は危険である。早期の歩道設置を希望する。

・現在、宇都宮市を事業主体としてLRT構想を推進しているようだが、県としての取り組みを説明してほしい。

・高齢化社会に対応できる、安心して暮らせる住環境整備の支援を望む。特に、経済的負担の少ない特別養護老人ホームの建設計画はあるか。

図書館利用のコツ!

おはなし会

図書館では、毎月第3土曜日の午前11時から、おはなし室で「図書館おはなし会」を開催しています。

「おはなし会」では、ボランティアの方や当館司書が、乳幼児から小学生向けに絵本や紙芝居などの読み聞かせを行っており、おもしろくて楽しいお話をたくさん聞くことができます。親子そろって参加できますので、ぜひお越しください。

芳賀町総合情報館

知恵の環館だより

今月の1冊



家族シアター
著・辻村 深月
(講談社)

ぶつかり合うのは、近いから。家族はややこしくも愛おしい。7つの我が家で起きた、忘れられない7つの物語。家族との絆をもう一度考えてみませんか。



おさるのジョージ どうぶつだいすき
著・M・レイ H・Aレイ
(岩波書店)

知りがりてかわいいうさぎのジョージが活躍するシリーズ。黄色い帽子のおじさんと、サファリパークにいったジョージは、まいごになってしまいました。そこで、サイの赤ちゃんを見つけたジョージは…。

※TRC週刊全点案内より転載

新着図書

- 一般書**
- ◎冬を待つ城 安部 龍太郎
 - ◎テミスの剣 中山 七里
 - ◎べんけい飛脚 山本 一力
 - ◎K2 池袋刑事課神崎・黒木 横関 大
 - ◎鳥たち よしもと ばなな
- 児童書**
- ◎きみは知らないほうがいい 岩瀬 成子
 - ◎こわくない 谷川 俊太郎
 - ◎おさるのジョージねむれないよ M.レイ・H.Aレイ
 - ◎おさるのジョージはいしゃさんへいく M.レイ・H.Aレイ
 - ◎おさるのジョージピザをつくる M.レイ・H.Aレイ

TRC週刊全点案内より転載

その他多数入荷していますので、ぜひご利用ください。

12月の休館日
1・8・15・22・29・30・31日
☎総合情報館(028(677)2525)

はがまる探検隊

第17話

町制施行60周年記念

「福田たねと青木繁のロマン스의謎を探る」
たね・蘭童・やす子の作品紹介



▼タマととうさん(福田たね)
やす子の父・長十郎は、やす子のしたことは何でもさせてくれたそうです。

子供(芥川やす子)

「子」という文字が6つ並んでいきます。たねとやす子の母子展のリーフレットの裏表紙に使われました。

今年8月から9月に総合情報館で開催された、町制施行60周年記念夏の特展「福田たねとその子どもたち」で展示された写真や作品を紹介します。



福田たね(左)と福田蘭童
青木繁との子・幸彦(蘭童)は、たねと別れて育ちました。成人し、たねと交流を持つようになりました。

不同舎のアトリエ(福田たね)



たねが、東京で絵を学んだ頃を思い出して、76歳の時描いた絵。

旧水沼小学校校歌(福田蘭童)

昭和33年に福田蘭童が作曲した水沼小学校校歌の自筆の楽譜。



たねと野尻長十郎の四女・芥川やす子は、2007年(平成19年)に87歳で逝去しました。生前、やす子は、母たねや自身の多くの作品を芳賀町に寄贈しています。それらは保存状態が悪く、修復が必要な作品が多く見られることから、総合情報館では、随時修復を行い、貴重な文化遺産を後世に残す計画です。